

江津市都野津町における古民家再生の取組

住居環境科 山崎 健太

Revitalization of Traditional Houses in Tsunozu, Gotsu City

Kenta YAMAZAKI

概要 石州瓦の産地である江津市都野津町では、赤い屋根瓦の古民家が点在しており、地域住民の方や学生によって古民家を再生する取り組みが行われている。古民家の新しい利活用は地域を発展させ、空き家の数の増加を防ぐ効果も期待される。2022年に島根職業能力開発短期大学校に赴任し、初めて総合制作実習を担当した内容が空き家となっている古民家のコンバージョンであった。その時の繋がりから、2024年にも総合制作実習において都野津町における古民家のリノベーションを実施したため、8名の学生と取り組んだ都野津町における2年間の取り組み内容について報告する。

1. はじめに

島根県江津市都野津町は、島根職業能力開発短期大学校（以下、島根短大）から北へ徒歩約20分の場所に位置し、歴史的な街並みが今なお残る地域である。しかし、全国的にも問題となっている空き家も点在しており、地域の景観や暮らしに影響を与えている。こうした課題に対処するため、地域の歴史と文化を保存しつつ、現代のライフスタイルに適応した古民家再生の取り組みが行われている。

本報では、都野津町の街並みを残すべく活動されている市民団体「都野津街並みの会」より依頼を頂き、総合制作実習のテーマとして実施した古民家再生の取組について報告する。2022年度には古民家カフェ&ギャラリー「よしゑやし」、そしてその時の繋がりから2024年度にはシェアキッチン&レンタルスペース「つづ base」のリノベーション工事に携わった。これらの活動を通じて、地域資源の活用と住民参加による古民家再生の実践内容を報告する。

2. 「よしゑやし」における取り組み

2022年度に取り組んだ「よしゑやし」は築92年、延べ床面積約155㎡の木造2階建ての空き家となっていた古民家である。購入者の方が、都野津街並みの会主催で都野津町において3月に実施されている街歩きイベント「つづさんぽ」に来訪された際に、地域のカフェにしたいとの思いを持たれ、カフェへの改修については地域住民も交えた協働のもとで実施することとなった。島根短大は客室のインテリアデザインから床、壁の施工、カウンターや棚等の什器の製作を担当した。

2.1 現地調査

現地調査を実施し、現況の実測、図面化と建物の劣化状態を確認した（図1）。当該古民家は玄関を入ってすぐのところに約23㎡の広い土間があり、田の字型に和室が配置された、昔ながらの間取りとなっている（図2）。調査の結果、壁にはカビなどの汚れが見られた。床下には蟻害や腐朽などは確認されなかったが、束等の部材の本数が不足している箇所が見受けられた（図3）。

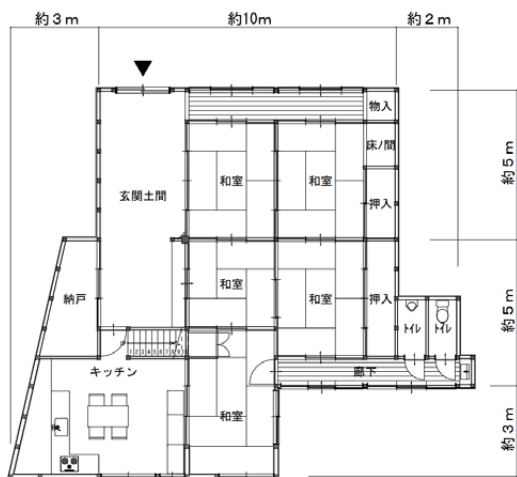


図1 よしゑやし平面図



図2 改修前の状況 (左：居間、右：土間)



図3 改修前の状況 (左：壁、右：床下)

2.2 計画案の作成

依頼主との打合せを通じて、「和モダンで地域の拠り所となるカフェにしてほしい」、「所有している古書や陶器の展示販売スペースを設けたい」との要望を受けた。都野津街並みの会の方と相談を重ねた結果、地域の方々と協働でカフェを作り上げることで、この要望に応えるとともに、多くの人に知ってもらえるような取り組みとして実施していくこととなった。島根短大が担当する全体の施工内容は、大きく分けて「床施工」「壁施工」「什器類の製作」の3つであり、各工程の要所でワークショップを開催した。ワークショップに向けた現場の準備などは島根短大が担当し、ワークショップの窓口業務は都野津街並みの会の方に担当していただくこととなった。

計画案(図4)については依頼主の方が所有されている陶器、古書を展示兼販売するギャラリースペースや本棚(図5)、広い土間部分を使用して地域の方が出店できるワンデーショップスペースを設けることとした。



図4 計画案



図5 計画案 (左：陶器展示棚、右：古書本棚)

2.3 作業内容について

総合制作実習は5月中旬から開始した。担当学生は5名で床や壁などの部分解体作業と同時進行で既存図面の作成、内装デザインの検討を進めた。都野津街並みの会との打ち合わせの結果、作業内容の分担と年間スケジュールは表1に示す通りと

表1 年間スケジュール

作業内容		5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
島根短大	計画案作成	■	■								
	部分解体	■	■								
	床下地施工			■	■	★					
	壁施工						★				
	床仕上げ施工							★	■	■	■
工業高校	什器製作								■	■	■
	椅子・机製作			■	■	■	■	■	★		
工務店 木工所	キッチン、トイレ設備類									■	■
	電気配線、照明設備									■	■
	外壁仕上げ									■	■
	建具									■	■

★：ワークショップ

なった。瓦や外壁などの建物外部の施工、設備機器、建具類については地元の工務店や木工所に依頼することとなった。また、カフェで使用する机や椅子の製作については、近隣の工業高校に依頼し、同校の学生が卒業制作として取り組むことになった。この年に大型のレーザー加工機が導入されたこともあり、椅子や机のデザインから部品の製作までを学生が担当することとなった。さらに、10月から翌年1月までの4か月間は、各工程においてワークショップを開催していくことになる。

2.4 床下地施工

部分解体作業の完了後、7月から床下地の施工に着手した。既存の床下は大引きが1485mm間隔、根太は約480mm間隔であった。既存の荒床の状態が良く、製材してフローリング材として再利用することとした。そのため、新たな床下地の構成では大引きについては910mm以下、根太については303mm以下で配置することとした。また、10月15日（土）には第1回目となるワークショップを開催した。内容は床下地における断熱材の施工に関するもので、島根県内だけでなく、県外からの参加者も見受けられた。ワークショップ後には構造用合板の取り付けを行い、床下地全体の施工については10月末までに完了した（図6、7）。



図6 床下地の施工



図7 断熱材ワークショップの様子

2.5 壁施工

既存の内装壁仕上げについては繊維壁で仕上げられていたが、部分的にカビや汚れが確認された。そのため、内装壁仕上げについては塗装仕上げと

し、仕上げ作業についてはワークショップで実施した。使用材料は下地材には繊維壁用の下地シーラーを選定し、仕上げ材にはローラーや刷毛で塗布が可能な漆喰を使用した。養生と下地作業（図8）については11月上旬から中旬にかけて行い、仕上げ作業となるワークショップは11月26日（土）に行った（図9）。

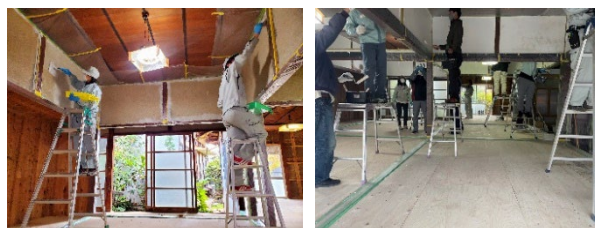


図8 壁の下地処理

図9 壁の仕上げ塗装

2.6 床仕上げ施工

12月10日（土）に3回目となる床仕上げ施工のワークショップを行った。仕上げ材については畳の下に使用されていた荒床を島根短大で製材し、幅や厚みをそろえて再利用した。荒床については割れ等の損傷もなく、非常に状態の良いものであったため、材料の再利用という観点においても理想的なものであった。施工におけるデザインについては、客室空間の中央に位置する柱を起点とし、フローリングを放射状に張っていくスタイルを採用した。中心部分から外側に向かって正方形が段階的に大きくなっていく構成であり、45度傾けた対角張りによって躍動感のあるものになっている。

また3回目のワークショップには九州職業能力開発大学の建築科の学生も参加した。異なる地域・学校の学生たちが一堂に会し、意見交換を行いながら協力して施工に取り組む様子は極めて印象的であった。ワークショップ当日は全体の約半分の施工となったため、残りの貼り付けと塗装についてはワークショップ後に学生5名で実施し床施工については完成した（図10）。



図10 床仕上げワークショップの様子

2.7 椅子・机製作

1月21日(土)に4回目のワークショップを実施した。カフェで使用する机と椅子の製作となっており、近隣の江津工業高校にご協力いただき、準備から当日の指導まで江津工業高校の学生に実施していただいた。レーザー加工機を使用してシナ合板から制作したパーツ(椅子:18パーツ、机:33パーツ)の表面をやすり、その後パーツ一つ一つに塗装を行い、木工ボンドを使用して組み立てていくものとなっている。このワークショップで椅子は10脚、机は6台制作することができた(図11、12、13、14)。

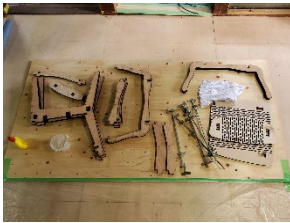


図11 椅子のパーツ

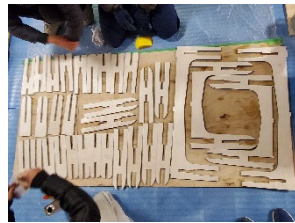


図12 机のパーツ



図13 製作の様子



図14 製作物

2.8 什器製作

床、壁、机・椅子の制作後、什器の制作を行った。ワンデーショップ用の展示棚、陶器展示用の棚、古書展示用の本棚、レジ兼厨房カウンターの4つを製作し、また、広い土間スペースに小上がり部分の施工も行った。

ワンデーショップ用の展示棚については、様々な出店者が使用することを想定し高さを変更できるものとなっている(図15)。

陶器展示用の棚については、建物の外部やワンデーショップスペース側からも見ることが可能な位置となっており、展示される陶器がより際立つように視覚的な印象効果を高めるためにガラスで構成したものとなっている。自然光の取り込みと陶器の質感の強調が可能なものとなっており展示効果を高められるものになっていると考える(図

16、17)。

古書展示用本棚については、既存の押入空間を活用し、古書の展示スペースとして再構成したものである(図18)。

レジ兼厨房カウンターについては、既存の柱を意匠的に取り込みながら依頼主の要望に応じた使いやすさを追求したものである(図19)。

さらに広い土間スペースには小上がりを新設し、ワンデーショップスペースとカフェ空間を緩やかに接続する役割を持たせた。小上がり部分には客席も設け、空間の高低差を視覚的に認識できる空間ともなっている(図20)。



図15 ワンデーショップスペース

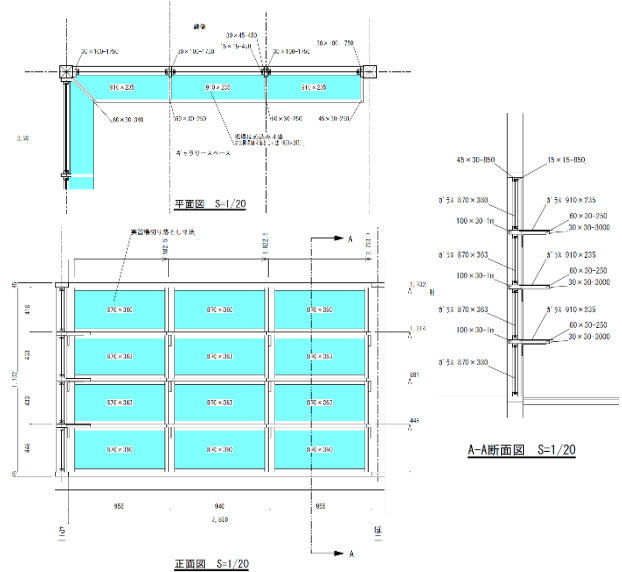


図16 陶器展示棚図面



図17 陶器展示棚



図 18 古書用本棚



図 19 カウンター



図 20 小上がり部分

3. 「つのづ base」における取り組み

2024 年度に取り組んだ「つのづ base」は築 123 年、延べ床面積約 108 ㎡の木造 2 階建ての古民家である。江津市の NPO 法人が購入され、借り受けている島根県立大学の学生が代表を務める団体の希望で地域住民の交流スペースやシェアキッチンを設けた施設への改修が行われた。島根短大としては改修の一環としてカウンター製作の依頼を受けた。改修作業にあたっては、依頼団体の「可能な作業については自分達でも実施したい」という意向を尊重し、ワークショップ形式での施工支援も実施することとなった（図 21）。

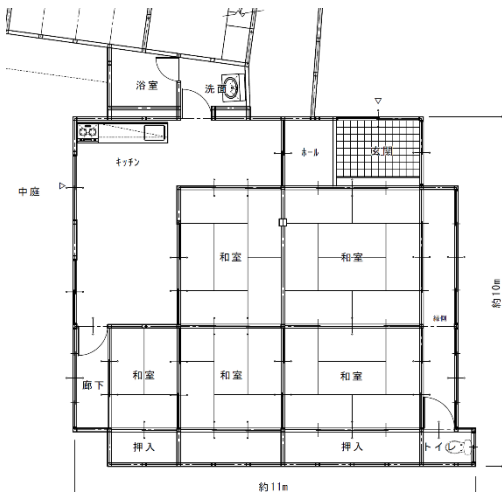


図 21 つのづ base 平面図

3.1 打ち合わせ

3 月中旬、都野津街並みの会の方と島根県立大学の学生が島根短大に来校された。つのづ base の計画内容の話と作業をするにあたってワークショップ等の協力依頼であった。

今回の取組は島根県立大学、島根短大、江津工業高校の 3 校が協働で取り組んだ内容となっている。企画・運営については島根県立大学の石川さんが担当し、島根短大は建物内部の中央に位置する約 7m のカウンター等の什器の製作、江津工業高校はカウンター上部に空間を仕切る戸の製作を行う。ワークショップについては天井解体作業、床解体作業、漆喰塗り、カウンター製作、カウンター塗装の計 5 回実施することとなった（図 22、23、24）。

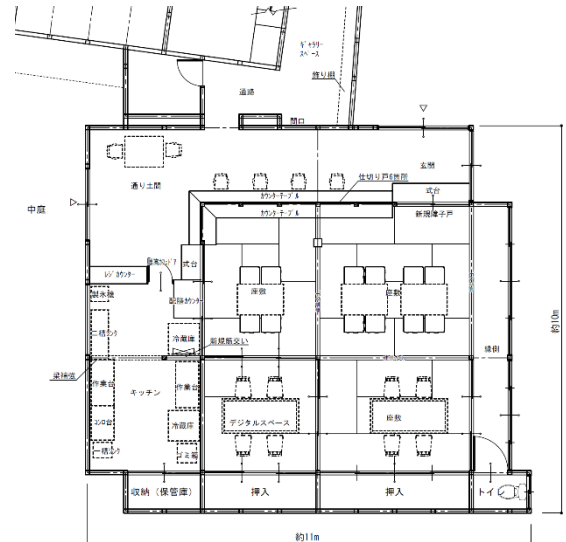


図 22 つのづ base 計画内容



図 23 改修前の状況（左：玄関、右：キッチン）



図 24 依頼者との打ち合わせ

3.2 天井解体作業ワークショップ

5月初旬、つづbaseにおいて第1回目のワークショップが行われた。内容は天井部分の解体作業で島根県立大学の学生を中心に島根短大の学生も参加して取り組んだ。解体部分は、もともとキッチンとして使用されていた箇所であり、広い土間空間として改修するため、天井材を撤去し、小屋組みを露出させる構成にした。小屋組みは状態も良く、当初予定していた内容を変更して既存のまま小屋組み部分を見せる状態でいくことにした。

3.3 床解体作業ワークショップ

6月中旬には床部分の解体作業を目的とした第2回目のワークショップを開催した。作業箇所は第1回目のワークショップで天井を解体した範囲と同様であり、土間空間の構築を目指して実施した。この建物の内部には直接的な入口は存在しないが外部から確認した結果、約8㎡の小部屋が存在することがわかった。壁の一部を破壊し内部の状況を確認したところ、新しい部屋が見つかり、当該スペースも活用することとした(図25)。

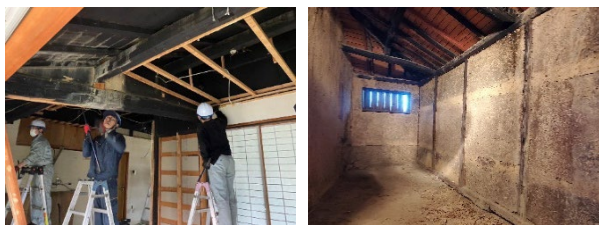


図25 解体ワークショップ

3.4 漆喰塗りワークショップ

9月下旬、内装の漆喰塗りワークショップが行われた。改修前はキッチンであった個所や汚れが見られた個所の施工で作業前に下地処理を行い、当日は鏝を使用して仕上げてもらった。初めて作業する方ばかりで、はじめは苦戦する方も多く見られたが、参加者の中には鏝で模様をつける方もおり、遊び心も追加されたものとなった(図26)。



図26 漆喰塗りワークショップ

3.5 カウンター計画

依頼主の方との打ち合わせから、製作するカウンターにはワークショップに参加した人が製作できる要素を含めることとなった。未経験の方が製作をしてもきれいに仕上げることができるものにする必要があるため、デザイン案については多角的に検討を重ねた。デザインの素材には都野津町にある旧町役場「都野津会館」の煉瓦調の外装が発想の原点となり、煉瓦をイメージしたウッドタイルを仕上げ材として採用することとした。ワークショップの参加者の方にはこのウッドタイルを使用してカウンターの壁面を製作していただくこととした。さらに、カウンターの壁面には角度を設けることで、対話が生まれやすい空間づくりを意識した設計となっている(図27、28、29)。



図27 都野津会館

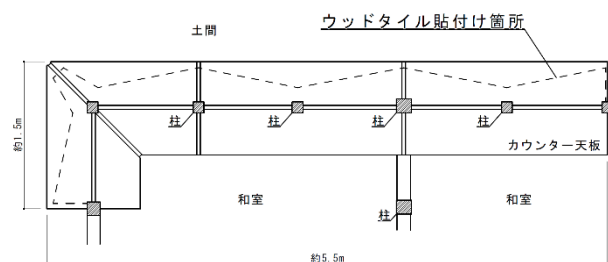


図28 カウンター平面図

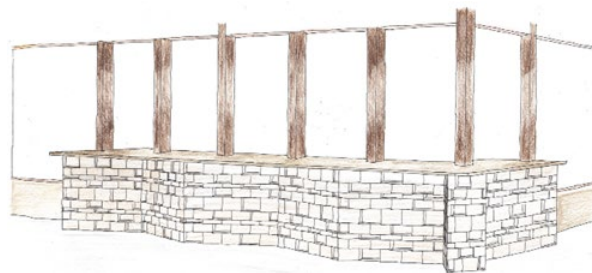


図29 カウンター計画案

3.6 カウンター下地施工

10月よりカウンターの施工を実施した。地元工務店との作業の兼ね合いからカウンターに隣接する土間施工についてはカウンター製作後に実施することから、カウンター壁面については浮いたような状態で製作していくこととなる。まず、既存の柱に加えて4本の柱を新しく取り付け、天板の支えとなるよう補強材の取り付けを行った。その後、壁の下地製作・取り付けを行い、仕上げ材となるウッドタイルの製作も行った(図30、31、32)。



図30 天板補強材



図31 壁補強材



図32 壁下地合板

3.7 カウンター製作ワークショップ

12月中旬、カウンターの仕上げ施工ワークショップが開催された。作業内容はカウンターの角度がついた壁面部分に事前に製作したウッドタイルを張り付けてもらう内容となっている。ウッドタイルは解体作業で使用しなくなった古材等を再利用したものとなっており、パーツの種類は厚さ3種類(15mm、20mm、25mm)、長さ2種類(50mm、125mm)、幅3種類(30mm、40mm、50mm)、樹種3種類(杉、柾、松)となっており、全部で約1600個用意した。施工方法に関しては張り付ける幅の列と長さの順番のみ指定し、厚みや形状、樹種については参加者自身に決めてもらうものとなっており、個々の創造性が反映されるようになっている。また、壁面には角度がついており、全部で10面あるため、2~3名で1グループになってもらい、1グループ1面仕上げてもらった。これにより、参加者が完成後に訪問した際に

自分が作業した箇所が明確にわかり、より思い入れのあるものになると考えた。参加者は島根県立大学、島根短大の学生から地域の人まで20人程参加した。当日終わらなかった箇所と調整が必要な箇所については島根短大の学生が後日実施した。

1月下旬にはカウンターの塗装ワークショップも行われた。ウッドタイルの貼り付けと塗装については参加者の方によって仕上げられたものとなっている(図33、34、35)。



図33 学生による作業内容の説明



図34 カウンター製作ワークショップの様子



図35 完成したカウンター

3.8 ショップ棚、レジカウンター製作

カウンターの施工後はレジカウンター・配膳カウンターの製作、解体ワークショップの際に新しく確認された部屋に設けるショップ棚の製作を実施した。レジカウンター・配膳カウンターについては、全体に統一感を持たせるためにウッドタイル仕上げとした。ショップ棚については共有スペースから新しく設けた小窓を通じて確認すること

ができるものとなっている。また江津工業高校が製作した仕切り戸の取り付けも行われた（図 36、37、38）。



図 36 ウッドタイルを使用した各カウンター



図 37 小窓からの様子

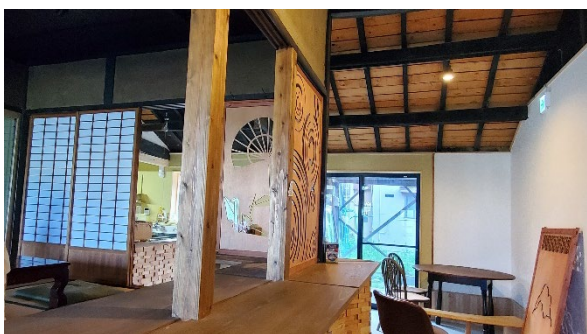


図 38 江津工業高校により製作された仕切り戸

4. その後

令和 4 年度に実施したよしゑやしについては、令和 5 年 4 月 12 日にオープンし、同年度の日本インテリア学会卒業作品展¹⁾において特別賞、しまね建築・住宅コンクール²⁾において奨励賞を受賞した。都野津街並みの会の運営協力とワークショップの参加者の尽力により受賞することができたものである。担当学生が卒業した後の受賞であったため、進路の関係で遠方の学生は参加できなかったが、よしゑやしにて受賞の取材も行われ、島根短大の活動をより多くの方に知っていただけたものとする。また、つなぐ base においては令和 7 年 3 月の都野津町の街歩きイベントつなぐさん

ぽにてプレオープンし、同年 5 月 7 日に正式オープンを迎えた。デジタル拠点やカフェ、シェアキッチンとしてすでに多くの方に利用されており、今後の活動内容にも注目している（図 39、40）。



図 39 受賞取材時の様子



図 40 街歩きイベントの様子

5. おわりに

令和 7 年 6 月のある日曜日、よしゑやしでは隣席でレジ教室が行われていた。オープンから約 2 年経過した現在も、多様な取り組みが行われており嬉しい限りである。本活動は地域の方々やワークショップ参加者の多大な協力によって実現されたものであり、深く感謝の意を表す。島根短大に赴任して以来、先輩指導員の紹介を受けながら、地域の方との取り組みに携わらせていただいた。今後も継続して地域と関連する内容に取り組んでいく所存である。

文献

- 1) 日本インテリア学会第 31 回卒業作品展 HP
<https://jasis2024sotsuten.myportfolio.com/166f9f7b23ade6>
 - 2) しまね建築・住宅コンクール HP
<https://www.pref.shimane.lg.jp/kenchikujuutaku/shimanoenoumai/konku-ru/konnku-ru-jisseki.html>
- 著者 E-mail Kenta.Yamazaki@jeed.go.jp

